

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	中山フラワーハウス管理運営事業	会計名称	一般会計				担当課	農林水産課		
		予算科目	6 款 1 項 6 目	事業番号	2580			所属長名	向井裕臣	
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業（事業の概要・結果のみ）						担当責任者名	堀内英幸		
法令根拠等	伊予市なかやまフラワーハウス条例、伊予市なかやまフラワーハウス条例施行規則						実施期間	【開始】	平成 17 年度	
総合計画での位置付け	産業振興都市の創造 魅力ある農業の振興							【終了】	平成 年度(予定) ■ 設定なし	
総合計画における本事業の役割	地域振興及び地域経済の活性化を図る。									
事業の対象	市内外の植物愛好家等に対し栽培技術等の情報提供及び展示即売			事業の目的	花卉に関する栽培技術の実証的な試験研究、情報提供及び展示即売を行うとともに、市民及び都市住民に花卉とのふれあいの場を提供することを目的とする。					
事業の内容(整備内容)	指定管理の下、次の業務を行う。施設の運営、維持管理 花卉の実証的な栽培技術の試験研究及び情報提供並びに展示販売、地域間の交流促進など			昨年度の課題に対する具体的な改善策	施設の改修等、支出の平準化を図るよう協議している。					

事業活動の内容・成果 (D0)

事業費及び財源内訳(千円)							事業活動の実績(活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	28年度実績	29年度予定	9月末の実績	29年度実績
直接事業費	13,462	9,424	0	0	0	9,061	入場者数 壳上額	人 千円	15662 13687	15000 13000	8075 8666	13450 14443
国庫支出金		0	0	0	0	0						
県支出金		0	0	0	0	0						
地方債		0	0	0	0	0						
その他		0	0	0	0	0						
一般財源	13,462	9,424	0	0	0	9,061						
職員の人工(にんく)数	0.10	0.22				0.22						
1人工当たりの人事費単価	8,086	8,017				8,017						
※ 直接事業費+人件費	14,271	11,188				10,825						
主な実施主体	伊予市	実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)		指定管理								
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	5年間の合計		
成果指標	指標				10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	50,000		
	指標設定の考え方				⇒	区分年度	28年度	29年度	30年度	目標	毎年度	
	指標で表せない効果					目標						
						実績						

事務事業評価（CHECK）

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)			指定管理者と連絡を密にし、施設の利用促進を図る。							
事務事業の評価	自己判定～担当責任者	妥当性	目的の妥当性	5 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 4 概ね、施策の目的に沿った事業である。 3 この事業では施策の目的を果たすことができない。	3	合計点が 14～15 : S 10～13 : A 8～9 : B 5～7 : C 3～4 : D	B	事業成果・工夫した点	利用客数の増加には繋がらなかったものの、新品種導入を検討することにより、空き施設利用の促進が図れた。	
			社会情勢等への対応	5 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 4 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 3 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。	3			事業の苦労した点・課題	昨年に引き続き、指定管理者の新しい発想により市内の施設等と連携を図りながら、一層の集客・販売力の強化が必要と思われる。	
			市の関与の妥当性	5 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 4 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 3 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。	3			事業の苦労した点・課題	昨年に引き続き、指定管理者の新しい発想により市内の施設等と連携を図りながら、一層の集客・販売力の強化が必要と思われる。	
		有効性	事業の効果	5 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 4 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 3 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	3	合計点が 14～15 : S 10～13 : A 8～9 : B 5～7 : C 3～4 : D	B	事業の苦労した点・課題	昨年に引き続き、指定管理者の新しい発想により市内の施設等と連携を図りながら、一層の集客・販売力の強化が必要と思われる。	
			成果向上の可能性	5 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 4 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 3 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。	3			事業の苦労した点・課題	昨年に引き続き、指定管理者の新しい発想により市内の施設等と連携を図りながら、一層の集客・販売力の強化が必要と思われる。	
	効率性	市民（受益者）負担の適正	施策への貢献度	5 施策推進への貢献は多大である。 4 施策推進に向け、効果を認めることができる。 3 施策推進につながっていない。	3			事業の方向性	■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する □ 事業廃止と判断する (判断の理由) 本事業は、指定管理により施設運営・維持管理を適切に行うことで、花壇に関する既存栽培技術や新技術研究の向上が図られるとともに、展示・販売等による財政削減も望めることから継続と判断する。	
			手段の最適性	5 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 4 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 3 活動指標の実績も上がりらず、効率的な手段の見直しが必要である。	3	合計点が 14～15 : S 10～13 : A 8～9 : B 5～7 : C 3～4 : D	A	事業の方向性	■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する □ 事業廃止と判断する (判断の理由) 本事業は、指定管理により施設運営・維持管理を適切に行うことで、花壇に関する既存栽培技術や新技術研究の向上が図られるとともに、展示・販売等による財政削減も望めることから継続と判断する。	
			コスト効率	5 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 4 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 3 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。	3			所属長の課題認識	本事業の審議会において示された改善計画の進捗状況を常に確認し、適時・適切な助言・指導を行う必要がある。	
		市民（受益者）負担の適正	市民（受益者）負担の適正	5 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 4 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 3 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。	4			所属長の課題認識	本事業の審議会において示された改善計画の進捗状況を常に確認し、適時・適切な助言・指導を行う必要がある。	
			手段の最適性	5 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 4 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 3 活動指標の実績も上がりらず、効率的な手段の見直しが必要である。	3	合計点が 14～15 : S 10～13 : A 8～9 : B 5～7 : C 3～4 : D	A	所属長の課題認識	本事業の審議会において示された改善計画の進捗状況を常に確認し、適時・適切な助言・指導を行う必要がある。	
	評価	一次判定～所属長	妥当性	社会情勢等への対応	5 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 4 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 3 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。	3	合計点が 14～15 : S 10～13 : A 8～9 : B 5～7 : C 3～4 : D	A	所属長の課題認識	本事業の審議会において示された改善計画の進捗状況を常に確認し、適時・適切な助言・指導を行う必要がある。
				市の関与の妥当性	5 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 4 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 3 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。	3			所属長の課題認識	本事業の審議会において示された改善計画の進捗状況を常に確認し、適時・適切な助言・指導を行う必要がある。
			有効性	事業の効果	5 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 4 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 3 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	3	合計点が 14～15 : S 10～13 : A 8～9 : B 5～7 : C 3～4 : D	A	所属長の課題認識	本事業の審議会において示された改善計画の進捗状況を常に確認し、適時・適切な助言・指導を行う必要がある。
				成果向上の可能性	5 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 4 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 3 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。	4			所属長の課題認識	本事業の審議会において示された改善計画の進捗状況を常に確認し、適時・適切な助言・指導を行う必要がある。
			効率性	施策への貢献度	5 施策推進への貢献は多大である。 4 施策推進に向け、効果を認めることができる。 3 施策推進につながっていない。	3			所属長の課題認識	本事業の審議会において示された改善計画の進捗状況を常に確認し、適時・適切な助言・指導を行う必要がある。
				手段の最適性	5 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 4 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 3 活動指標の実績も上がりらず、効率的な手段の見直しが必要である。	3	合計点が 14～15 : S 10～13 : A 8～9 : B 5～7 : C 3～4 : D	A	所属長の課題認識	本事業の審議会において示された改善計画の進捗状況を常に確認し、適時・適切な助言・指導を行う必要がある。
				コスト効率	5 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 4 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 3 满足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。	3			所属長の課題認識	本事業の審議会において示された改善計画の進捗状況を常に確認し、適時・適切な助言・指導を行う必要がある。
			市民（受益者）負担の適正	市民（受益者）負担の適正	5 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 4 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 3 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。	4	合計点が 14～15 : S 10～13 : A 8～9 : B 5～7 : C 3～4 : D	A	所属長の課題認識	本事業の審議会において示された改善計画の進捗状況を常に確認し、適時・適切な助言・指導を行う必要がある。

施 策 を 踏 ま え た 判 断	二 次 判 定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
			一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。 集客・売り上げ向上計画の一つとして栗まつりでの共催イベントや花まつり会場をウェルピアから移転して主催するなどの検討をする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
			一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
			既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。	

行政評価委員会の答申	外 部 評 価	答申の内容
------------	------------------	-------

今後の方向性 (ACTION)

の経 最 終 者 判 会 議	事業の方向性	コメント欄	
		<input type="checkbox"/> さらに重点化する。	二次判定の内容を踏まえ見直すこと。
		<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 右記の点を見直しの上、継続する。	
		<input type="checkbox"/> 事業の縮小を行う。	
		<input type="checkbox"/> 事業の休止、廃止を行う。	